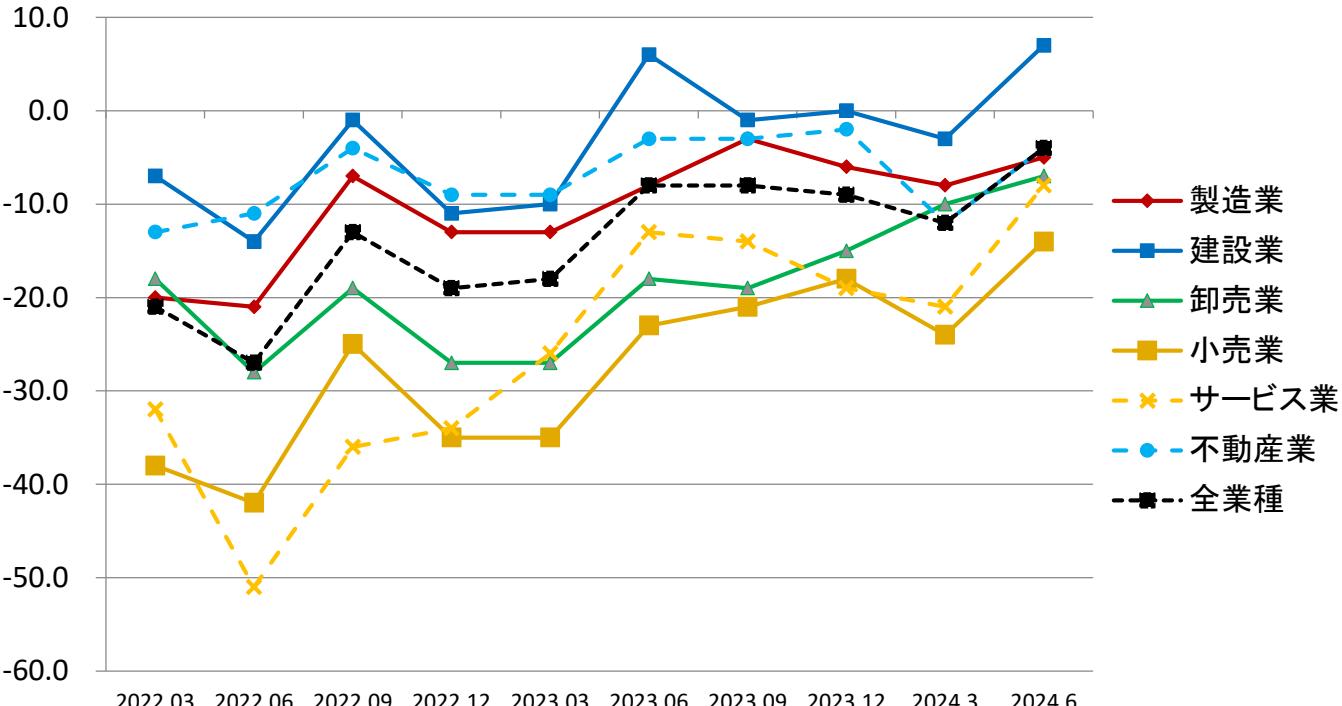


福生市商工会 経営だより

1.多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。
出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.109

2.業況判断DIの分析

今期の全業種業況DIは、前期より8ポイント上昇のマイナス4となり、新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に移行した2023年6月期の景況感を上回る結果となりました。業種別に見ると、すべての業種で前期より景況感は改善しています。特に、小売業が10ポイント上昇のマイナス14、建設業が10ポイント上昇の7、サービス業が13ポイント上昇のマイナス8と大きく改善しました。一方で、製造業が3ポイント上昇のマイナス5、卸売業が3ポイント上昇のマイナス7と上昇幅が他の業種に比べて小さくなりました。なお、来期の全業種業況DIは、今期より4ポイント上昇の0となる見通しで、引き続き景況感の改善が見込まれています。

3.中小企業診断士の一言

福生市の夏の風物詩である「第74回福生七夕まつり」が7月19日から21日に開催されました。今年は「福生から世界に活気を」をコンセプトにコロナ禍で中止となっていたメインイベントの一つ民踊パレードが5年ぶりに復活しました。商工会は地域の事業者が業種に関わりなく会員となり、事業や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。福生市商工会は七夕まつりで飾りつけや露店対応で会員の皆さんと協力しておりました。地域連携は、他業種との勉強会・懇親会での情報共有や、コラボ商品の開発など、自社だけでは実現が難しいことに対応可能になります。事業発展のため、ぜひ商工会を活用し地域連携を深めましょう。

4. 主要業界のトレンド

【全体】

「小規模企業白書」とは、小規模事業者が直面する課題を明らかにし、課題を乗り越えるための取組について分析する実状報告書です。毎年公表され、今年も5月に公表されました。今年の白書では「小規模事業者は資金調達や販路開拓等の経営課題に対応しながら、売上げを確保し事業を持続的に発展させていくことが重要」とあります。経営課題となる資金調達や販路開拓に取り組みましょう。

【製造業】

クラウドファンディングは、新商品開発や設備投資等に対して、インターネットで不特定多数の人に出資者になってもらい、資金を調達する仕組みです。目標金額を定めて達成することで資金調達が可能となります。共感を呼ぶことが目標達成の秘訣で、匠の技や独自性が訴求できる小規模製造業の資金調達に相性が良いと考えられます。新商品開発や設備投資など新たな取り組みの資金調達で活用を検討しましょう。

【サービス業】

インスタグラムは写真や動画をメインに投稿できるSNSの1つです。飲食店のコース料理の写真やマッサージ店の施術動画など、視覚的なPRができるため、サービス業のプロモーションに相性が良いと考えられます。インスタグラムには個人用のアカウントとは別にビジネスアカウントがあります。ビジネスアカウントでは販路拡大に活用可能な分析ツールがあります。ビジネスアカウントで投稿のアクセス数を分析し、どのような投稿が人気なのか把握し、新たな投稿に反映しましょう。

【小売業】

展示会などのイベントからECサイトへ顧客を誘導する、オフラインとオンラインの融合が注目されています。SEO対策などのオンライン施策に取り組むとともに、体験会や、イベントなどオフライン施策と関連付けた販売を行いましょう。

【建設業】

「ビジネスチャンス・ナビ」は、官民の入札・調達情報を集約した受発注取引のマッチングサイトです。都の外郭団体などが電子入札サイトとして活用しているほか、民間事業者による発注案件が掲載されます。登録や利用の費用は無料で、新たな取引先と案件を通しつながることや、市場動向をはかるツールとして活用できます。販路開拓の新たな手段として登録利用を検討しましょう

5. 小さな企業の新たな取組みのためのヒント

2025年問題とは、日本が超高齢化社会に突入し発生する問題のことです。事業承継においても、後継者不在などが深刻になることが予測されています。事業承継は事業を後継者に引き継ぐ作業で、多くの労力と時間がかかります。後継者が決まても3~10年の準備期間が必要と一般的に言われています。60歳になる頃までには方針を決めて事業承継について考えていきましょう。事業承継の課題は、後継者育成以外にも技術承継や、建設業などの場合の許認可承継などがあります。課題の対応策として、技術承継の研修費などを助成する「多摩・島しょ地域資源承継支援助成金」があります。事業承継について、ぜひ商工会にご相談ください。